

キク白さび病情報第1号

令和5年7月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

キク白さび病の発生が多くなっています。
梅雨時期はまん延する恐れがありますので注意しましょう。

1 キク白さび病の発生状況

6月下旬に巡回調査を行った平坦部7ほ場において、発生ほ場率57.1%（平年22.2%、前年25.0%）、発病茎率11.4%（平年3.1%、前年4.7%）と、**発生ほ場率は過去10年間で3番目、発病茎率は2番目に高い状況**でした。発病茎率が70%に達するほ場も確認されています。また、**山間部でも発生が多いほ場が確認されています**ので注意が必要です。

2 キク白さび病について

キク白さび病は糸状菌による病気で、感染すると葉の裏側に白い小斑点ができ、さらに病気が進行すると、白色～淡褐色のいぼ状の斑点になります。多発すると葉の他、がくや茎にも斑点ができます。発病適温は20℃であり、夏の高温期になると発病は止まりますが、梅雨時期はまん延する恐れがあるため、防除に努めましょう。



図1 白さび病葉表の病斑



図2 白さび病葉裏の病斑

3 防除対策

- (1) ほ場や施設周辺の発病株は伝染源となるので、不要な親株等は速やかに処分する。
- (2) 被害葉は伝染源となるので、できるだけ摘除する。
- (3) 発生ほ場では、表を参考に薬剤を散布する。
- (4) 薬剤の使用にあたっては、薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を控え、異なるFRACコードの薬剤をローテーションして使用する。

表 キク白さび病に対する主な薬剤

薬剤名	成分名	本剤の使用回数	FRACコード
ラリー乳剤	ミクロブタニル	5回以内	3
アンビルフロアブル	ヘキサコナゾール	7回以内	
カナメフロアブル	インピルフルキサム	3回以内	7
オペラフラワー乳剤	ピラクロストロビン	3回以内	11
アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	5回以内	
サンヨール	DBEDC	8回以内	M1
ステンレス	アンバム	8回以内	M3
ダコニール1000	TPN	6回以内	M5

FRAC コードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2022.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。